

那智勝浦町色川地区



中山間地域における地域ハブ (HUB) の役割と可能性を考える



色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど走った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していききました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名です。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に開催されています。



活動報告

地域の寄合に参加

7月13日、14日の2日間今年度初の訪問で2日間滞在しました。1日目は悪天候の中、棚田を始めとする地域の施設を見学し、2日目には地域の寄合にも参加しました。「おまぜ」と呼ばれる色川で昔から作られている料理をはじめ、準備から片付けまで住民の方と行うことで地域に関する様々なことについて聞くことができ、貴重な経験となりました。



「環境共生の会」とは

色川では「環境共生の会」という集まりがあります。環境問題について深く考え、色川で環境負荷の少ない暮らしを実現させようと、「環境共生の会」では様々な取り組みが行われています。私たちは実際の寄り合いの場に参加させて頂くことが出来ました。

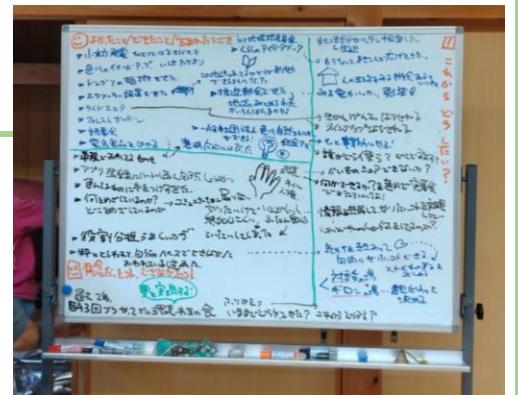
【取り組みの例】

- ・ 自動車を使わない移動の実現(電動自転車を用いる)
- ・ 庭にソーラーパネルを設置する
- ・ 小水力発電所を作る(まだ実現途中) etc...



実際に参加してみても

色川では住民の方々がをより魅力的な地域にしようと積極的に活動しており、新しいことにチャレンジするエネルギーを感じました。地域内に多様な知識や経験を持つ移住者が多いことも色川の強みだと感じました。一方で様々な考え方が存在する中で、一つにまとめ進んでいくことの難しさとリーダーシップの重要性を実感しました。



今年度の活動を経て

昨年度は、「色川」を「外」の視点から学ぶことが出来ました。「全国棚田サミット」が那智勝浦町で開催され、地域の方たちと一緒に運営に携わらせて頂きました。1年を通して、中山間地域とは、色川とはどういう地域なのか、深く知ることが出来たと思います。今年度は昨年度に比べ、より「色川」を「内」の視点から学ぶことが出来ました。「環境共生の会」という地域の寄り合いに参加させて頂き、色川で暮らす人々がいかに色川をどのような地域にしていきたいのか、「色川の未来」について考え行動していることが分かりました。

この2年間の活動を通して、色川における中山間地域の【HUB】とは、【色川について考え、その思いを共有することが出来る寄り合いの場】ではないかと考えました。自身が今暮らしている地域について思いを馳せ、それを共有し合い実行できる場があることで、「色川」の住民であることに自覚と誇りを持つことができ、「色川」で暮らす人々の心を繋ぐことが出来ているのではないのでしょうか。色川での活動を通して、ここでしか出来ない学び、発見を得ることが出来た貴重な2年間になったと思います。